



(写真提供：沖縄国際婦人クラブ)

沖縄国際婦人クラブ(OIWC) ハロウィーン昼食会

第18航空団広報局



2012年10月9日、沖縄国際婦人クラブ（Okinawa International Women's Club - OIWC）の会員約200名は、嘉手納基地の将校クラブにおいて昼食会を開催しました。

ハロウィーンをテーマにした昼食会ということで、参加者はフラメンコの衣装やバットマン、力士、海賊などユーモア溢れるコスチュームを着て参加しました。

OIWCは米国人150名、日本人150名で構成されている団体で、県内において様々な福祉活動や文化交流を行っています。OIWCは今年、設立60周年を迎えました。

昨年は、沖縄県内の福祉施設などに総額25,000ドルの寄付を行ったということです。

アメリカ版「料理の鉄人」が嘉手納基地にやって来た！

第18航空団広報局

11月1日から4日、世界的有名な「料理の鉄人」の森本正治氏が、嘉手納基地に訪れ、空軍兵や家族に寿司や刺身を調理する様子などを披露しました。

森本氏にとって、嘉手納基地は初めて訪れた米軍基地です。最初に訪れたNCOオッカークラブでは、36kgのマグロを解体、切り身にし、寿司ロールをふるまいました。また、基地内の料理コンテストに最終審査員として参加。基地内のエクスチェンジショッピングセンターでは、多くの人が森本氏のサインや握手を求めて列を作りました。

料理の鉄人は、嘉手納の飲食施設も訪問。エメリー・レーンズ・ボーリングセンターでは、第18任務支援中隊のシェフと共にスパイシーソースのついた海老てんぷらを新たなメニューとして考案しました。小さなころからシェフか野球選手になったかったという森本氏。肩を負傷したため野球選手への道をあきらめましたが、18歳で高校を卒業した後、料理の世界に進み、そのキャリアは37年になります。森本氏はこの仕事は大変な道ではあったが大好きだといいます。もし夢を追いかけるのであれば、好きなことを思いっきりやるべきだと語りました。



第554レッドホース中隊、沖縄一条園に芝刈り機を寄贈

第18航空団広報局

2012年10月14日、嘉手納基地第554レッドホース中隊所属の隊員達より、沖縄市にある特別養護老人ホーム「沖縄一条園」へ芝刈り機2台と熊手4本を寄贈しました。レッドホース中隊のボランティアたちは、定期的に沖縄一条園を訪れ、園内の草刈作業を行ったり、お年寄りを訪ねて交流を行っています。この日も、園内の駐車場周辺をはじめ、清掃及び草刈りを行いました。

ボランティア達は、以前から一条園で芝刈り機等の用具が不足していることに気がつき、資金を集め協力し合って今回の芝刈り機などを購入し、寄贈することになりました。

554 RED HORSE SQUADRON
VOLUNTEERS @ ICHIJO-EN!



(写真提供：第544レッドホース中隊)



従軍牧師ら主催の感謝祭、基地内地元従業員を招待

第18航空団広報局



2012年11月20日、嘉手納基地の従軍牧師の主催による感謝祭の昼食会が第1礼拝堂で行われました。

今回、伝統的な米国の感謝祭にふれてもらうため、基地内で働く地元従業員が招待されました。礼拝堂所属の軍人達がターキー（七面鳥）やハム、グリーンビーンキヤセロール（きやインゲンのオーブン焼き）などを準備、参加者へ伝統的な食事を味わってもらいました。第18航空団副司令官のマクダニエル大佐も昼食会に参加し、基地内地元従業員に対し挨拶をし、歓談しました。

海外から米国に移民して来た開拓者が、農作物の初収穫を祝って神に感謝をするために始まったとされる感謝祭。1620年にイギリスからメイフラワー号に乗って米国へ渡った移住者たちは、翌年、米国新しい土地で初めて感謝祭を行ったといわれています。



(写真全て、米空軍：マリア・ジェンキンス上等兵撮影)

沖縄国際カーニバル2012

第18航空団広報局



(指定以外の写真提供：沖縄国際カーニバル実行委員会)

11月24日土曜日、「沖縄国際カーニバル2012」が沖縄市のコザ・ゲート通り周辺で開催されました。今回多くのボランティアが嘉手納基地より参加しました。パレードには、総勢約900人がそれぞれ趣向を凝らした衣装を身につけ、むつみが丘公園から国道330号とコザ・ゲート通りに至るパレードコースを歩きました。嘉手納基地から、カデナ・ハイスクール・マーチングバンド、バレット・

フォークロリコ・メキシカン沖縄、イースタン・スター、その他の個人参加を含む約100人がパレードに参加しました。パレード参加者を対象にコンテストが行われ、パレード部門とステージ部門で競いました。パレード部門は更に「スクール自慢」、「活動自慢」、「国際」と3つに分かれ、審査の結果、嘉手納基地から参加したマーチングバンドを中心としたボランティアらが「国際パレード」賞を獲得。更にバレット・フォークロリコ・メキシカン沖縄の団体に対し、ステージ部門特別審査員賞が授与されました。

祭りも終盤になり、午後7時から始まった「国際大綱引き」では、コザ・ゲート通りに地元市民や基地側から軍人や家族連れが続々と集まりおよそ6000人が沿道にあふれ、綱引きの準備に取りかかりました。昨年同様今年もまた、頼もしい助っ人であるAirmen Committed to Excellence（通称エースと呼ばれる航空兵有志の会）より約150の航空兵がボランティアとして参加し、雄綱をコザ・ゲート通りの中心へ移動しました。雄綱と雌綱がしっかりと組み合わせられた後、綱引きが始まりました。1回目は日米子供達の綱引きが行われ、保護者の応援や掛け声が飛び交う中、基地内の子供達と、地元の子供達が力を合わせて枝綱を引きあいました。2回目と3回目は日米大人達による綱引きで、胡屋十字路側の東側と嘉手納基地第2ゲート側の西側のチームに分かれ10分以上も曳くという大接戦となりましたが、2回とも西チームに軍配が上がりました。また祭り開催前の11月18日に行われた大綱製作作業には、嘉手納基地より約30名のボランティアが地元の市民と一緒に、綱を編む作業に参加しました。沖縄独特の大綱作

りとあって米側ボランティアたちもまたとない貴重な体験を楽しみながら取り組んでいました。

嘉手納基地から参加した軍人、軍属、家族の人々にとって、国際色都市豊かな沖縄市の市民とともに親善を深めた一日となりました。



(右、上・中・下の写真、米空軍：ジャスティン・ヴィゼイ上等兵撮影)

**OKINAWA
INTERNATIONAL
CARNIVAL**